

病虫害発生予報 第2号(5月予報)

和歌山県農作物病虫害防除所
TEL 0736(64)2301

<予報の概要>

作物名	病虫害名	発生量	作物名	病虫害名	発生量
水稲	もみ枯細菌病による苗腐敗症 褐条病 ばか苗病 いもち病 ヒメトビウンカ 縞葉枯病(紀北地域) ツマグロヨコバイ イネミスズウムシ	並 並 並 並 並 多 やや少 並	カンキツ	かいよう病 そうか病 黒点病 灰色かび病 ミカンハダニ ヤノカイガラムシ チャノキアザミウマ	やや多 並 並 並 やや少 並 並
タマネギ	灰色かび病 べと病 軟腐病	並 やや多 並	カキ	うどんこ病 円星落葉病 角斑落葉病 チャノキアザミウマ	やや少 やや多 やや多 並
ウリ類	モザイク病 斑点細菌病	並 やや多	果樹全般	カメムシ類	多
野菜全般	アブラムシ類 ハダニ類 ミカンカイロアザミウマ	並 並 並			

気象予報

1か月予報(予報期間4月21日～5月20日 大阪管区气象台)

<特に注意を要する事項>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。期間のはじめは平年に比べ晴れの日が少なく、その後は、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、多い確率50%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

		月平均気温(平年値) (℃)		月降水量(平年値) (mm)	
5月	和歌山	19.3	和歌山	150	
	潮岬	19.1	潮岬	249	

I. 水 稲

1. もみ枯細菌病による苗腐敗症

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 前年の県内全域におけるもみ枯細菌病の本圃での発生面積率は0%（平年6.3%）で、発病した圃場はみられなかった。
- ② 5月の降水量は、多い確率50%である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病ほ場から採種した種子は使用しない。
- ② 種子は塩水選を行い、銅含有剤（テクリードC剤等）で消毒する。その後の浸種は停滞水で行い、2日間は水を交換しない。
- ③ 浸種から育苗中の温度管理に注意し、30℃を超えないようにする。

2. 褐条病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 近年は少発生に推移している。
- ② 5月の降水量は、多い確率50%である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① もみ枯細菌病による苗腐敗症の項参照

3. ばか苗病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 前年の県内全域におけるばか苗病の本圃での発生面積率は7%（平年3.3%）と平年並であった。
- ② 種子消毒に用いる薬剤の効果は安定している。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 種子消毒を行う。

4. いもち病（苗いもち、葉いもち）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 5月の降水量は、多い確率50%である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 種子消毒を徹底する（自家採種では塩水選もあわせて実施する）。
- ② 田植え時に育苗箱処理剤を施用する。

5. ヒメトビウンカおよび縞葉枯病

(1) 予報内容 発生量 ヒメトビウンカ 並・縞葉枯病（紀北地域）多

(2) 予報の根拠

- ① 4月中旬の休閑田における20回振り搦り取りによる平均生息数は、紀の川市で8.7頭（平年7.0頭）、和歌山市で8.7頭（平年8.5頭）、かつらぎ町で3.0頭（平年6.1頭）と平年並であった。
- ② ヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市で16.1%（前年14.7%）、かつらぎ町で15.9%（前年12.7%）であった。これらの保毒虫率は、平成3～12年の平均（2.8～3.4%）より高い。
- ③ 平成23年7月中旬に、紀北地域本田におけるイネ縞葉枯病の発生を調査したところ、44ほ場中11ほ場（発生ほ場率25.0%）で確認された。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、雑草地付近での育苗を避ける。
- ② 第1世代成虫は6月下旬に水田に飛来し、第2世代幼虫の発生最盛期は7月上旬と考えられることから、前年にイネ縞葉枯病の発生が認められた地域では、幼虫を対象にこの時期の追加防除を行う。
- ③ その他、病害虫発生予察注意報第1号参照のこと。

6. ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生時期 やや遅 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 4月中旬の休閑田における20回振り搦り取りによる平均生息数は、紀の川市で2.0頭（平成24頭）、和歌山市で13頭（平成61頭）、かつらぎ町で29頭（平成84頭）であった。
 - ② 越冬世代の50%成虫化時期は4月2半旬（平成3月6半旬）と平年に比べてやや遅かった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 前年発生が多かった地域では、田植え時に粒剤を育苗箱施用する。

7. イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察灯による4月の誘殺数は4半旬現在、那智勝浦町0頭（平成1.2頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 田植え時に粒剤を育苗箱施用する。
 - ② 5月中旬までに田植えする地域のうち、多発地ではさらに田植え3～4週後に薬剤を処理する。

II. 野 菜

<タマネギ>

1. 灰色かび病(白斑葉枯病)

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 4月4半旬現在、紀北地域での発生ほ場率は0%（平成0.7%）であった。
 - ② 5月の降水量は、多い確率50%である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ほ場の排水を良くする。
 - ② り病株や収穫後の残さはすみやかに処分する。

2. べと病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 4月4半旬現在、紀北地域での発生ほ場率は27.3%（平成15.3%）であった。
 - ② 5月の降水量は、多い確率50%である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ほ場の排水を良くする。
 - ② り病株はほ場から持ち出して処分する。

3. 軟腐病

- (1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 4月4半旬現在、紀北地域での発生ほ場率は0%（平年0.7%）であった。

② 5月の降水量は、多い確率50%である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 降雨前後を重点に薬剤防除を行う。

<ウリ類>

1. モザイク病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 4月4半旬現在、紀の川市、日高郡美浜町のハウス栽培キュウリにおける発生ほ場率は3.1%（平年0%）であった。

② アブラムシ類の発生は並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① アブラムシ類の防除を徹底する。

2. 斑点細菌病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 4月4半旬現在、紀の川市、日高郡美浜町のハウス栽培キュウリにおける発生ほ場率は12.5%（平年0%）であった。

② 5月の降水量は、多い確率50%である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設内の換気を良くして湿度低下を図る。

② 薬剤防除は予防散布を重点に行う。

<野菜全般>

1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 和歌山市のキャベツでは4月4半旬現在、発生株率はモモアカアブラムシ18%（平年22%）、ニセダイコンアブラムシ1%（平年3.3%）であった。

② 4月の黄色水盤への飛来数は、4半旬現在27頭（平年64頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤散布にあたっては葉裏に薬液が十分かかるように行なう。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 那賀地域のイチゴでは4月4半旬現在、ナミハダニは発生ほ場率33%（平年26%）、寄生葉率1%（平年6.8%）、カンザワハダニは発生ほ場率33%（平年28%）、寄生葉率4%（平年6.1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① スイカでは、早くから寄生するほ場外縁部の株をみて、早期発見に努め、初期防除を行う。

② 同一系統の薬剤を連用しない。

3. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

4. 灰色かび病(開花期)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 連年発生が多い園では、開花期～落弁期の天候に留意し、満開期に防除を行う。

5. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県予察ほ場(無防除)における4月中旬の発生は認められず、マシン油乳剤を散布している慣行防除園における発生は認められなかった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 冬期から春期にかけてマシン油乳剤を散布していない園では、夏用マシン油乳剤200倍の散布を行なう。ただし、開花期に近いと実害は少ないが奇形花を発生させることがあるので注意する。

6. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容 発生時期 第1世代1令幼虫初発日
5月5半旬(やや遅)

発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県予察ほ場(無防除)における越冬完了歩合、寄生量は平年並であった。

② 昨年10月の巡回調査では、発生果率は0.0%(平年0.4%)、発生園率は3%(平年7%)と平年より少なかった。

③ 第1世代1令幼虫初発日は、予察式 $Y = 57.03 - 0.109X$ により求めた。ただし、 $X = 3$ 、4月の最高気温^{*1}(11℃超の各日の気温) - 11℃の積算、 Y は5月1日を起点とした日数であり、 $Y = 22.1$ 日(予測式 Y の平年値^{*2}は16.1日、予察ほ場の樹上における実際の初発日の平年値は16.2日)であった。

※1: 予測式に使用した最高気温は、3月1日～4月18日まで本年の実測値を用い、4月19日～30日は平年値を代用した。

※2: 予測式および樹上における初発日の平年値は1982年から2011年までの値を使用した。

7. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 黄色粘着トラップでの越冬成虫の誘殺頭数は、県予察ほ場(無防除)及び日高郡由良町で平年並であった。発生時期は平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① イヌマキやサンゴジュなど防風樹近くでの発生が多い。

<カ キ>

1. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 昨年10月の巡回調査では、「富有」の発病葉率は17.2%(平年35.7%)と平年よりやや少なかった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 子のう胞子飛散最盛期は4月下旬～5月上旬であり、この時期に水和硫黄剤を散布する。昨年多発した園では、この時期の防除を徹底する。
- ② 4～5月に降水量が少なく、乾燥気味に経過すると発病が助長される。
- ③ 菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏をねらって丁寧に散布することが大切である。

2. 円星落葉病、角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報根拠

- ① 昨年10月の巡回調査では、「富有」における円星落葉病の発病葉率は18.6%（平成2.0%）、角斑落葉病の発病葉率は36.8%（平成21.2%）と平成よりやや多かった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 円星落葉病の子のう胞子飛散は、5月下旬～7月中旬の降雨後に多くみられるので、マンネブ、マンゼブ水和剤、有機銅水和剤等を定期的に予防散布する。

3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 黄色粘着トラップでの誘殺数は平成並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 落弁期を中心に防除する。
- ② マキやサンゴジュなど防風樹の近くで発生が多い。

< 果樹全般 >

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での本年の越冬量は、1.1頭（平成0.2頭：極端に越冬量が多かった年を除く）と、平成よりやや多かった。県南部（有田以南）では1.2頭（平成0.3頭：極端に多かった年を除く）と、いずれも平成に比べ多かった。
- ② 紀中・紀南地域では、越冬期中晩柑園でツヤアオカメムシが多く認められたことから、越冬密度は高いと考えられる。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きいので、園内での発生及び被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- ② ウメの被害には品種間差が大きく、小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。カンキツでは蕾、花を加害するので、被害状況を観察して防除する。
- ③ 農林水産総務課研究推進室ホームページ内の果樹カメムシ情報（<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/yosatu/kamemusi/kamemusi.htm>）や各地域でのJA等の調査情報を参考にし、対応する。
- ④ 農薬については最新の登録情報（農林水産消費安全技術センターHP農薬登録情報提供システム：http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）を参照し、適正に使用する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○**農業環境・鳥獣害対策室ホームページ** <農作物病虫害防除所コーナー>

[http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/
boujyosyo-yosatsujoyouhou.html](http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujoyouhou.html)

○**和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所(TEL 0736-64-2301)までお願いします。